

# グループ企業のネットワーク化により経理コストと作業ロスを削減

## 事業内容

住宅の設計・施工・販売、建材の加工・販売  
コンピュータシステムの開発・販売

## IT導入の目的、ねらい

当社の業務は様々な業態に分かれており、事業所ごとに業態にあわせた経理、工程管理を行っていた。しかし、全体を管理する上では非効率であったことから、イントラネットによりデータを一元管理して情報を共有化することで、コストダウンを図ろうと考えた。

当社の事業グループ内に、コンピュータソフトの開発・販売をする部門があり、この部門(ソハード事業部)を核として、グループ12社(社員500人)をイントラでネットワーク化し、業務の効率化を図るとともに、そのシステムを他社に販売しようと考えた。

## IT導入の経緯

きっかけは、社長がある会合の運営役をまかされたときに、情報のやりとりをパソコン通信で行ったことである。その際に、コンピュータを使った情報の共有化がいかに便利かを実感した。そこで、社長のトップダウンでイントラの導入を決め、3ヵ月かけて一気に導入した。

最初は課長以上にパソコンを持たせて、とにかく使わせるようにした。また、役員会を電子会議にしてペーパーレス化した。操作が分からない役員に対しては、若手社員を後ろに待機させて、教えるような体制をとり、利用を徹底した。

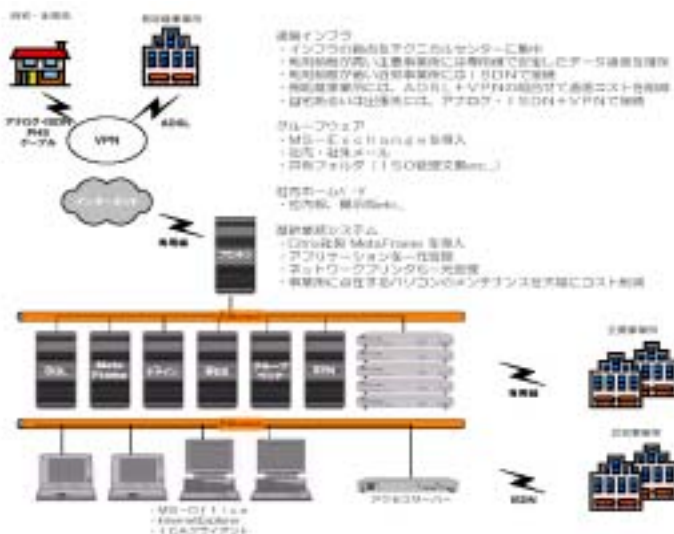
イントラネットでは、経理をネット上で管理できるほか、売上・仕入れの管理もネットで一括集中して出来るようにした。

また、住宅部門では、工程管理システムを導入して、作業員、資材をタイムリーに発注・搬入して、建設の作業にロスがでないようにしている。作業員の人件費はとて高いので、人、資材を効率よく発注・搬入することで、工程管理を徹底してコストを低減している。

## ITの導入状況と費用

平成10年に約2,000万円(パソコン代別)かけてイントラネットの基本システムを整備した。グループウェア\*1は、マイクロソフトエクステンジを使用している。

また、生産状況やトラブル情報は、携帯電話で情報を送受信できるシステムを構築している。



システムの構成図

\*1 グループウェア(groupware) : コンピュータネットワークを利用して、複数の人間からなるグループでの情報共有、およびそれらの相互作用を円滑化するソフトウェアの総称

#### ■ I T 導入時の問題とその対応策

イントラネットはただのインフラにすぎない。そこに付加価値を付けて使いこなさなければ、無駄な投資となってしまふ。工程管理や経理のイントラ化でコストを下げ実益に結びつけるというように、I T で何ができるかを明確にして、コンピュータがないともはや仕事が出来ないくらいにシステム化する必要がある。

I T 導入にあたっては、社長自らが積極的に使って旗振り役となり P R することが社内の普及に繋がる。それがシステム部門の育成にもなる。

企業が新しいことに挑戦することで、社会への還元になると考えている。I T で合理化するだけではなく、社員もステップアップしていかなければいけない。

#### ■ I T 活用の具体的効果

イントラネットを整備したことにより、社長が自由に動けるようになった。パソコンがあればどこにいても情報が取れるし、決裁もメールで行っているので迅速な処理ができる。社長の出張が海外を含めて年間 100 日くらい有るが、その間も会社の機能は止まらなくなった。

海外にいる社員も、電子メールで情報をやりとりしたり、電子掲示板（パブリックフォルダ）で社内文書を共有したりして、情報過疎にならないですむ。

経理をシステム化することで、伝票処理に要する手間が削減できたので、事務員は少なくなった。

また当社は I S O を取得したが、イントラネットを使って I S O の資料をペーパーレスで作ることができるし、入力のためにパソコンを使わざるを得ないので、パソコンに慣れることもでき、一石二鳥の効果があった。

#### ■ 今後の I T 関連計画

ブロードバンド化が急速に進んできたので、イントラネットもブロードバンドに対応するように整備し直す必要があると考えている。

今後は、会議資料をプレゼン感覚で作れと言っている。お客様にアピールするためには、まず社内でアピールできなければいけない。そのために、資料やマニュアルを作るのに、文字だけではなくパワーポイントなどを使って、図表や画像を入れて作れと言っている。そのために、カラープリンタもたくさん導入した。

#### ■ 今後 I T を導入する企業へのアドバイス

- ✓ I T はインフラの 1 つにすぎない。それを使ってどのような付加価値を生み出すか、どう使いこなしていくかを考えること。いきなり E-コマースではなく、身近なところで何かできることから始める。
- ✓ I T 化を妨げるのは、慣例や慣習。前例にとらわれずに、常に新しいことに興味を持ち、それを実現する上で I T が利用できないかを考える。
- ✓ I T でシステムを構築する際には、現場の声をよく聞く必要があるが、全てを聞いていては收拾がつかなくなってしまう。合理化するためには切り捨てることも必要。

会社名	矢橋林業株式会社
業種	建築材料、金属材料等卸売業
設立年月	昭和 28 年 2 月
資本金	45,000 万円
従業員数	168 名
所在地	大垣市赤坂町 226
U R L	<a href="http://www.yabashi.co.jp/">http://www.yabashi.co.jp/</a>